一番の悩みは――
内職と活動の板狭み
今考えよう主婦会の意義

三池主婦会の交流

三池主婦会は四月二十一日から五月十五日まで二十五日間にわたり、分会ごとに集まってもらって全主婦会員の交流を行なった。（ほとんど夜だった）

各交流会の場には必ず主婦会の本部役員が参加したが、交流の目的は、第四次合理化反対闘争・CO闘争を中心にすすめてきた組合・主婦会のこれまでの運動を率直に反省し、来たるべき年度に向けて闘いをどう発展させてゆくかその方向を見きわめようということにあった。

交流はうちつづく物価値上がりと、時代離れな低賃金のからみ合いからくる生活のきびしさを反映して、全体的にその集まりは悪かったが、それでも本部役員が骨身を惜しまず各交流の場に参加した努力が、集まる主婦会員の心を動かし、どこの例も話し合いは真剣だった。

寄せられた声の数々

二十七日編集部はとくに集まってもらって主婦会役員から感想を聞くことができたが、役員たちは次のように語った。

――物価値上がりと低賃金がどんなに各家庭のくらしを圧迫しているか、よくわかった。しぜん社会党に対する期待が大きく、それだけにまた選挙のときばかりでなく、日常もっと活動すべきだとの批判が強かった。

――何かといえばすぐ、さアハチマキしめよではダメだ。もっと女性らしい行動を組むべきだとの声が出た。

――幹部ががんばっているわりには、何のためかさっぱりわからんとの声も出たが、せんじつめてゆけば、集会や行動に参加することが少くなっていることがそうさせているのだとわかった。実際、活動に参加しようとすれば大切な内職がやれず、内職仕事をやろうとすれば活動に参加できなくなるという矛盾がある。この矛盾をどう解決すべきなのか、主婦みんなの悩みは大きい。

――とにかくお金をとることがどれほど大変なことか、つくづくわかった。もちろんこんどの交流はとてもよろこばれ、こんな交流はもっともっとやるべきだとの意見も出ている。

――これからはもっと、きびしい生活にとけこんだ活動を考えるべきだと思う。

――内職はやらねばならぬが、それがあまり長くつづくと自分もきることながら、家族全体の健康の保持が心配になるとの声が出た。やっぱり仂くことばかりではダメだとつくづく思った。

――それを押してやっぱりやらなければならず、家庭内職など一日がんばってたった二百円にしかならない状態もある。そんな家庭では主人までが、昼の坑内の仕事でくたくたに疲れた体で帰ると、こんどは家で母ちゃんの内職の手伝い。

――鷺町の主婦たちの間から、こんど近くにできたニワトリの屠殺場にだいぶん仂きに出かけている。悪臭がひどく環境が悪いことを知りつつ、そんな職場にさえ出かけてゆかなければならないところまで追いこまれている事実は重大だと思う。

――だから「動員にはあまりひっぱり出さんようにしてくれ」との声が出るのも当然だと思う。

――それでもがんばらんなら、生存権そのものを奪われてしまう。だからいまこそ、三池主婦会の存在意義を再認識すべきだとの声が出たのだと思う。

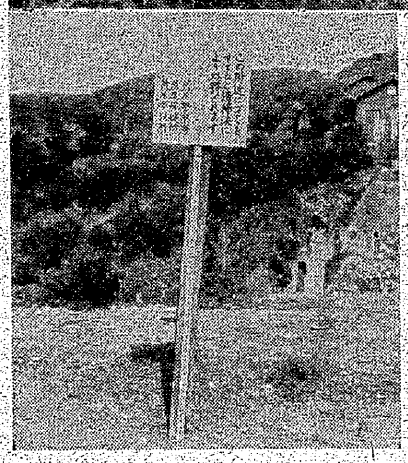
機関紙みいけへの批判も

なお、以上のほかにも「いまの新聞"みいけ"は、闘い一辺倒にしぼられ過ぎている。もっとユーモアがほしいし、季節や料理、生活やお花などに関する記事を大幅に取り入れるべきだ」「生協組の物資配送日がズレてこまる。そのためいたずらに尊い一日を犠牲にしなければならない点を考えてもらいたい」「犠牲者や退職者をもっと暖くスクラムに包もう」などの声が出たといい、こんどの交流は学ぶべき点が非常に大きかったようだ。

詩　本日休業

柿坂　敏

ショベルに体をもたせて
憩っている若者
そのショベルの先端に
「本日休業」と落書がしてある
なんとユーモラスな
抵抗の表現だろう
瞳が出合って
私と若者はニタリと笑いあった
それは、抵抗を理解しあう
労働者同志の心で交す
握手のように。



写真上は、鷺町の一角の例のゴミ棄て場になってしまっているところで、その臭いことといったら…写真下は、万田西町の防空壕の上にデンと立った荒尾市・保健所・荒尾警察の立札。

何のための清掃費か
会社はもっと――
環境衛生に注意せよ

梅雨入りを前に、集団社宅における環境衛生のことが問題になっている。

その一つの例が荒尾市緑ケ丘社宅の鷺町の一角（三十一～二棟付近）にある凹地がそれで、どこのだれがもってきて棄てるのかきたないゴミでその一角が埋まっている。

そばを通るだけでむーんと鼻をつく悪臭。銀色の蠅群がたかり、悪い病気でもでるともうおしまいだが…と思うと、ゾッとする。

このゴミ棄て場ならぬゴミ棄て場を感心なことに、正月などことあるごとに文句一ついわずに、個人で整理しつづけてきた人がいる。上園仁志さん（港務所の操車手で三池労組員。同町三十二棟居住）がそれであるが、この仕事果して上園さん一人にまかせておいてよいものかどうか。「会社は清掃費として俺たちの月々の賃金の中からちゃんと、二十円ずつ差し引いている。それだのに、こんな状態を何年も放ったらかすとはもってのほかだ。この際会社にやらせるようにすべきだ」との声もあるが。

こうして環境を改善させた

荒尾市の万田西町の一角にある防空壕が、環境衛生上から問題になった。ここもまた心ない人々によって、長い間ゴミ棄て場にされてきたのだった。うっかりするとゴミをトラックで運んできてまで棄てていたという。

西町の社宅に住む三池労組員の家庭で問題となり、さっそく坂本荒尾市議を通して市・保健所・警察所に対し、「ぜひ三井鉱山に対する行政指導を行なってもらいたい」と厳しく要請していった。

その結果こんどこの防空壕にはちゃんと荒尾警察所・荒尾市保健所・荒尾市三者の名をもって「この付近にゴミを棄てると、清掃法により処罰されます」との立札がたったおかげで、いままではさすがにゴミを棄てる心なき人もいなくなった。と思ったら、こんどは会社も三川人事係長の名をもってゴミ捨て厳禁の、さらにシャンとした立札をたてた。

「やっぱり大いにいうべきですよ」とだれもいうが、しかしいまのうちこの防空壕一帯は大消毒の必要がある。

▼…糞の悪い話だが、昨年度の全国所得番付でまた、あの「明るいナショナル」の松下幸之助が一位にランクされた。その所得がなんと一年間で七億三千六百十二万四千円。

その金額―聞いただけでは実態がチョットつかみにくかったので、それを十二で割って見た。そしたら出てきた一カ月の所得が六千百三十四万四千円。まだハッキリつかめない。三十で割った。そしたら彼の所得は一日で二百四万四千八百円だった。

さらに割ってゆく。すると松下ナショナル氏の所得は、なんと一時間で八万五千二百円、一分間で千四百二十円と出た。つまりカチッカチッと

一分間の所得が千四百二十円也

十べん数える度に、彼のフトコロには、彼がすやすやと眠っていてさえ千四百二十円ずつ、向うから飛びこんでくるわけだ。

▼…俺の方はといえば、クックいって仂きながらやっと一カ月で二万五千円の所得。これを例にならって割って見たら、一日で八百三十三円、一時間で三十五円、一分間で六円と出た。

千四百二十円と六円。一分間の所得が、資本家と労仂者とではかくも違うものか。

畜生ッ！一日も早く矛盾だらけの資本主義制度をぶっ倒さんなら……と、俺は今年も例によって歯ぎしりしながらくやしさをこらえた。

私の帽子
緑の色も今はさめたが……

四山開発　藤田勝彪

「天皇の帽子」という小説がある。天皇陛下が全国を巡幸されるとき、中折れ帽子をわしづかみにして、国民にむかって頭をさげられる姿は、国民の心をひいたものであった。

思えば、終戦前のこと、東京代々木の練兵場で観兵式が行なわれた。そのとき白馬にまたがり、真っ白い鳥の羽根のついた帽子をかぶっておられた天皇陛下の前を、兵隊が隊伍をつくって行進する。なかなか壮厳であった。

学生の帽子というと、円いのと四角なのとがある。昔円いのは一高で、四角なものといえば帝大、つまり東大である。早稲田大学の帽子は変形だった。

私の帽子は緑色で組合からもらったものだが黄色くさめかけている。だが、この帽子はなかなか脱ぎにくいのである。

私は組合の帽子を一年中かぶっている。どこへゆくにもかぶっている。

その帽子をかぶって道を歩いていると、あいさつする人がある。「人違いかなア」と思っているとそうではなく、そんな人は三池労組員なのである。私がかぶっている帽子を見たのである。

いつだったか老人の人までが私の帽子を見て「がんばってください。私の家も三池労組員です」とあいさつしてくれた。

また、いつか西鉄電車の駅にいったとき、そこの駅員の人が「三池労組は大変ですね。がんばってください」とはげましてくれた。

帽子のおかげである。

×

四山職場六分会新聞"職場六分会"10号から

映画　"祇園祭"
大地評推せん

▼…この十一日から天牟田中央松竹で公開されますこの映画は、京都の祇園祭の歴史に取材したもので、応仁の乱で焼野ケ原と化した京の町を、自分たちの手で平和な町に再興し、途絶えた祇園祭を復活しようとたち上がった町方衆の闘いを描いたものです。

中村錦之助主演・伊藤大輔監督の芸術祭参加作品。

▼…割引券を利用すれば二百五十円。各指導部にあります。